

小5 日本語 3学期 1月 文の組み立て なまえ _____

○ 次の文の空らん（ ）に入れるのによいと思うものを選びなさい。

- (1) ①まごいや ひごいが 泳ぐ。 ②海は、青くて 広い。
③赤や 白の 花が さく。

上の文で、①の「まごいや」は、「ひごいが」と対等にならんでいる。そして、二つの言葉は、ひとまとまりで「何か」を表している。②の()、③の「赤や」と「白の」も、対等にならぶ二つの言葉がひとまとまりで、「どんなだ」「どのような」を表している。このように、二つ以上の言葉が対等にならぶ関係を「並立の関係」という。

「青くて」と「広い」 「海は」と「青くて」 「海は」と「広い」

- (2) ①犬がいる。 ②犬が走っている。

二つの文を比べると、①の「いる」が、「そこにいる」という意味を表しているのに対して、②の「いる」は、もともとの「いる」の意味がうすれて、「走って」にその動作が続いているという意味をそえているのにすぎない。このように、前の言葉に意味をそえるはたらきをする言葉を「補助語」といい、この「走って」と「いる」のような関係を「補助の関係」という。ほかに、「かびんが置いてある。」の、「()」なども、補助語である。

かびんが ある 置いて

- (3) ① あら、きれいな花。 ② 三月八日、この日はぼくの誕生日だ。

「あら」や「三月八日」は、文の中でほかの言葉と結びついてはいない。このように、文の中で独立した立場にある言葉を、「独立語」という。「桜、それは日本を代表する花です。」という文の「()」も独立語である。

桜 それは 代表する

(4) 次の説明を参考にして、あとの文が、単文・重文・複文のどれにあたるかを選びなさい。(どれでもないときは、×を選びなさい。)

単文一文の中に主語と述語が一組だけある文。

重文一文が二つ以上続いて、一つの文になっている文。

複文一文の中に、もう一つ文が混じっている

(主語や述語や修飾語となる部分が、文の形をしている)文。

わたしは小学校へ行き、弟はようち園へ行く。

複文

×

単文

重文

(5) 次の分類を参考にして、あとの文があてはまる文の種類を選びなさい。

① 平叙文…疑問文・命令文・感動文以外のふつうの文。

② 疑問文…相手に対し、質問したり、疑問を投げかけたりする文。

③ 命令文…相手に対し、命令したり、禁止したり、希望したり、たのんだり、さそったりする文。

④ 感動文…感動を表現した文。感動を表す言葉が使われていることが多い。

「その本を貸してください。」

感動文

疑問文

命令文